

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

1. 社会的規範を身につけ、高い目的意識を持ち、希望進路実現に向け、意欲的に勉学に取り組む心身ともにたくましい生徒を育成する。
2. 授業や部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深め、感性豊かな生徒を育成する。
3. 安全で安心な教育環境のもと、社会人として自立し、社会に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 授業の充実

- ア 若手教員（新採3年以内）の校内研修を実施する。
 - イ 首席を中心とした山高プロジェクトで、授業評価をもとに授業の教材や指導法、要求水準の見直しなど教員の授業改善策に取り組む。
- ※平成 26 年度の生徒向け学校教育自己診断の授業に関するすべての項目において肯定的評価 8 割以上にする。

(2) 図書活動の推進

- ア 各教科と連携し年間の貸し出し数 10000 冊以上の維持をめざす。
 - イ EFHS 事業の grade readings や DVD を充実し、英語に慣れ英検や TOEFL にチャレンジする意欲を持たせる。
- ※2 年後には図書館で生徒主催の読書感想や英語でのミニ講演会やミニ討論会が開催できている。
※卒業時に生徒全員が英検 3 級を持ち、準 2 級、2 級を 3 割以上が取得している。

2 夢と志を持つ生徒の育成

(1) 自尊感情を育て、夢や志を持つ生徒育成

- ア 凡事の徹底を図り規律ある、自主性にあふれた生徒の集団づくりをめざす。
自らの行動を律し規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める生徒集団にする。
 - イ 将来に夢や目標を持ちその実現努力のために卒業生、同窓会の協力を得て「先輩に学ぶ」機会を設ける。
 - ウ 部活動入部を働きかけ、入部率を 8 割以上、運動部入部率を 6 割にする。
- ※平成 26 年度の学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的評価を 8 割にする。

(2) 交流活動のさらなる推進

- ア 支援学校、地域の園幼小中、異文化交流やボランティア参加で、共生社会の担い手となる生徒を育成する。
- ※学校教育自己診断の「国際理解、福祉ボランティア等について学習する機会が多い」という項目の肯定的評価を 8 割以上にする。

3 安全安心な学校づくり

(1) 規範意識の向上

- ア 基本的生活習慣が確立された生徒を育てる。
 - イ メディアリテラシー教育に取り組む。
- ※年間遅刻総数が 1000 件以下になる。

(2) 災害時の対応

- ア 校内を整理整頓しておく。
 - イ 登下校時の避難場所マップを作製する。
- ※教職員や生徒が突然の災害に遭遇しても冷静に対応できるマニュアルの完成、近隣の小中学校や地域住民と合同防災・防犯訓練を実施する。

(3) 生徒支援の体制強化

- ア 教職員の事務作業時間軽減と生徒情報の一元化と、情報に関する委員会分掌の再編の検討をする。
 - イ 校内スキルアップと共有フォルダを利用した校内掲示板を作成する。
- ※文部科学省『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』大阪府版で教員の 8 割が「わりにできる」を回答する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「授業の充実」 授業改善と研究授業、公開授業に取り組む ア 若手教員の育成 イ 授業評価をもとに授業改善策に取り組む</p> <p>(2)図書活動の推進 ア 図書貸し出し数府下トップをめざす イ・EFHS事業 ・ミニ講演会ミニ討論会の実施</p>	<p>(1) 学力生活実態調査結果を山高PJで分析し、教員は自己の授業教材や要求水準の見直しを図る。 ア・学校教育自己診断および授業評価を年間2回実施し、授業改善に取り組む。 ・初任者、3年目の校内研究授業を実施する。 イ・公開授業を実施する。 ・1年生数学の習熟度別少人数展開にして、基礎基本の徹底を図る。</p> <p>(2) ア・国語科読書マラソンやEFHS事業におけるgrade readingsの蔵書やDVDを充実させる。 イ・1年生全員が英検3級を受検し取得をめざす。全員に放課後面接練習を実施する。夏季休業中に準2級以上の受検者に集中講習を実施する。 ・AETをリーダーとした英語サークルを作り、聞く話す実践力を養う。 ・生徒会、図書委員会を中心に、生徒会主催のミニ講演会やミニ討論会を実施する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断で満足度だけでなく授業に関する項目の肯定的評価6割。 イ 全教科公開授業の実施。</p> <p>ア 貸し出し11000冊以上。grade readings 5000冊。 イ 1年生全員英検3級取得。準2級、2級の合格者50名。</p>	
2 夢と志を持つ生徒の育成	<p>(1) 自尊感情を育て、夢や志をもつ生徒育成 ア 凡事の徹底 クラスや学年のリーダーを育て、自主性や責任感をつけさせる。 イ 先輩の体験談を聞き進路実現について学ぶ ウ 部活動入部率をアップさせる</p> <p>(2) 交流活動の推進 ア・共生社会の担い手になる ・ボランティア活動の推進</p>	<p>(1) ア・生徒会役員をリーダーに、式や学年行事で、クラス委員が集合点呼して担任に報告できるようにする。校歌斉唱をする。・基本的な生活習慣を身につけるよう全教職員が協力して取り組む。 イ・「先輩に学ぶ」同窓会の協力のもとに各分野で活躍されている人や、在校生に近い年度の卒業生を招き、将来の進路選択、職業選択の参考や指針となる機会をつくる。1年生、2年生は、同窓会の協力を得て生き方や考え方の参考になるものを、3年生は、年齢の近い先輩から体験談を聞くなど、進路選択にかかる経験交流会を実施する。 ウ・1年生の部活動への入部率アップをめざし、中学校とのクラブ交流（現在運動部5クラブ実施）を拡大する。</p> <p>(2) ア・八尾支援学校高等部だけでなく本校（小中）にも英語出前授業や吹奏楽部、和太鼓部を通じた支援交流をする。近隣の幼稚園、小中学校、老人会への積極的参加を継続する。 ・八尾市花植えボランティアに参加する。</p>	<p>ア 遅刻数を平成23年度の20%減。 イ 学校教育自己診断の生徒向け項目の「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」に肯定的評価が8割。 ウ 1年生の入部率8割。運動部入部率6割。</p>	
3 安全安心な学校づくり	<p>(1) 規範意識の向上 ア 基本的な生活習慣の確立 ・学年会を月に一度 イ メディアリテラシー教育</p> <p>(2) 災害時の対応 ア 校内の整理整頓 イ 避難経路の確認 ウ 生徒支援の体制を強化</p>	<p>(1) ア・生徒会活動の一つとして、毎週月曜日を生活習慣チェック日にして基本的な生活習慣の確立を意識させる。 ・担任団としての生徒の情報共有を密にするため月に1度は学年会を持ち、担任と副担任の業務の見直しをする。 イ・情報の発信伝達、収集獲得について、専門家（校内講師もあり）生徒向け講演を実施する。</p> <p>(2) ア・学習の集中力アップのためにも全校で整理整頓に取り組む。・校内緑化をする。 ・職員室、準備室の大掃除を計画する。 イ・災害時の校内避難経路の確認や、登下校時の避難場所確認を首席、保健部で実施する。 ウ・教職員が情報リテラシー（メディアリテラシーとコンピューターリテラシーの違い）を理解する。 ・生徒個人情報一元管理実施に努める。情報委員会と分掌の再編の検討を始める。・各準備室でも日々の学校予定や連絡を閲覧確認できる掲示板づくり（見える化）の準備を始める。</p>	<p>ア 学校教育自己診断の教員向け項目「生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している」に8割以上が肯定的評価をする。 イ 隣接している小学校と合同避難訓練の実施。 ウ 教職員向け学校における教育の情報化の実態等に関する調査で「わりにできる」と5割が回答。</p>	